

自己点検・自己評価報告書（令和5年度）

学校法人瓶井学園 日本メディカル福祉専門学校
こども福祉学科（通学2年課程）
令和6年4月1日作成

1 学校の教育目標

こどもにとって重要な乳幼児期に関わる専門職として、保育の現場で必要となる専門知識・技術を持ち、こどもの気持ちに寄り添いながら、こどもを取り巻く種々の環境を調整するための的確な判断と対応ができる優れた保育士を育成する。

また、少子化が進み、家庭や地域での子育て力の低下が指摘され、こどもだけでなく保護者に対しても個々の状況に応じた支援が求められているなか、社会福祉士国家資格や幼稚園教諭免許状を併せて取得し、ソーシャルワークのスキルを持った保育士として専門的かつ実践的に対象者に関わっていくことのできる人材を育成する。

2 令和5年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

- (1) 保育に携わるものとして求められる公共心、コミュニケーション能力の向上を図る。
- (2) 有識者や保育現場等の関係者からの意見を取り入れた教務運営・授業を行い、より実践的な知識・技術修得、保育士（専門職）としての価値観を身につけることができるように支援する。
- (3) 職員が研修に積極的に参加することにより、教育の質の向上を図る。
- (4) 全職員が一人でも多くの入学生を確保するための広報活動に積極的に取り組む。
具体的にはオープンキャンパスにおいて体験実習を行い、保育実践への理解と関心が深まるように工夫する。又、ホームページやSNS 広報の充実を図るなどして、本学科（教育理念の発信や幼稚園教諭免許状取得サポートなどの取り組み）の認知度向上に取り組む。さらには、オンライン説明会により、個別で相談を継続する。
- (5) 卒業に向けた学生支援や進路指導の充実を図り、学生の希望が実現できるように情報収集と個別指導を徹底する。個別相談をベースに早期からの就職支援を希望する学生には、適宜情報提供等を実施していく。
- (6) 在校生・卒業生・保護者、実習先や地域社会に対し、本校の教育に対する理解を深めていただけるよう情報を発信、実践を行う。

3 評価項目の達成及び取組状況

(1) 教育理念・目標

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1	評価委員 確 認
学校の理念・目的・育成人材像は定められているか (専門分野の特性が明確になっているか)	④ 3 2 1	
学校における職業教育の特色は明確か	④ 3 2 1	
社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	④ 3 2 1	
学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが学生・保護者等に周知されているか	4 ③ 2 1	
各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	④ 3 2 1	

【総括・特記事項】

- ・学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などについて、教職員が熟知し、折に触れ学生に伝えている。対外的にはホームページ、学校案内などに本校の教育方針と特色（アドミッション・ポリシーなど）を記載しており、概ね周知されている。
- ・令和5年度は保護者懇談会の参加希望者が皆無であったこともあり、学生の教育理念や情勢に伴う内容に関して、改めて説明する機会を設けることは出来ていない。但し、入学式への参列があった際やオープンキャンパスへの保護者同席があった場合は、当科の教育方針などを積極的に説明するように心がけている。ついては、継続的に懇談会やオープンキャンパスイベントなどで保護者とコミュニケーションをとることから本科の特徴を理解して頂くことを目指す。
- ・社会福祉士の受験資格取得を希望する者には、本校の社会福祉士（通信）科に在籍の上、国家試験合格に向けた授業展開（学校独自科目）・国家試験受験対策を行っている。

(2) 学校運営

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1	評価委員 確 認
目的等に沿った運営方針が策定されているか	④ 3 2 1	
運営方針に沿った事業計画が策定されているか	④ 3 2 1	
運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか	④ 3 2 1	
人事、給与に関する規程等は整備されているか	④ 3 2 1	
教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか	④ 3 2 1	
業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	④ 3 2 1	
教育活動等に関する情報公開が適切になされているか	④ 3 2 1	
情報システム化等による業務の効率化が図られているか	4 ③ 2 1	

【総括・特記事項】

- ・定められた運営方針（事業計画）は、定期的な管理者会議、学科会議等を通じて教職員に伝達されている。
- ・学校の目的、目標の達成や社会のニーズへの対応のため、各委員会・研修会を開催し、学校運営を行っている。
- ・教育活動等に関する情報公開は、ホームページや学校案内、学生募集要項等で行っているが、学生の学内における様子なども取り入れながら、入学希望者、在校生、保護者などにとってわかりやすい内容とするため随時見直しを行ない、ホームページの更新やSNSを活用しての情報発信を行っている。ついては、今後も継続し、定期的な更新を行うことが必要である。
- ・業務効率化を図る情報システム化については、クラスルームの導入・運用を行っている。

(3) 教育活動

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1	評価委員 確認
教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	④ 3 2 1	
教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	④ 3 2 1	
学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	④ 3 2 1	
キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	4 ③ 2 1	
関連分野の企業・関係施設等や業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	4 ③ 2 1	
関連分野における実践的な職業教育（産学連携によるインターンシップ、実技・実習等）が体系的に位置づけられているか	4 ③ 2 1	
授業評価の実施・評価体制はあるか	④ 3 2 1	
職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか	④ 3 2 1	
成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか	④ 3 2 1	
資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはできているか	④ 3 2 1	
人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	④ 3 2 1	
関連分野における業界等との連携において優れた教員（本務・兼務含む）を確保するなどマネジメントが行われているか	4 ③ 2 1	
関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力・育成など資質向上のための取組が行われているか	④ 3 2 1	
職員の能力開発のための研修等が行われているか	4 ③ 2 1	

【総括・特記事項】

- ・厚生労働省が指定する保育士養成施設として、令和元年度入学生から新カリキュラムに則った教育を実施し、卒業生を輩出している。
- ・保育士資格は卒業と同時に取得できる資格であり、国家資格取得がカリキュラム上で明確に目標として定められている。
- ・各科目の指導内容・方法等は所定のシラバスを作成し、講義概要として学生に配布している。各科目のシラバスでは、主に授業目標、授業内容及び担当教員名、成績評価基準などを明記している。
- ・「指定保育士養成施設の指定及び運営の基準」により教員資格要件が設定されているため、専門分野の知識・技能レベルが充足した教職員を確保できている。なお、外部研修については令和5年度は参加が少なかった為、さらなる研修の参加や自己研鑽、教授内容への反映が課題である。

- ・講師要件を備えた教員が学生の特性に配慮した授業を展開できるようにしている。特に実践力を身につけるための演習科目については、複数名の教員を確保している。一方で関連分野（保育現場）の教授を通常授業だけではなく、特別講義のような形で実施することは継続的な課題である。
- ・単位認定や卒業要件を明示するとともに、各担当教員は厳密に成績評価を行い、判定会議を経て単位認定を行っている。
- ・大学卒以上の入学者には社会福祉士国家資格（受験資格）、幼稚園教諭1種免許状も併せて取得できるコースを設定しており、トリプル資格取得希望者2名の学習サポートを行っている。
- ・高校卒以上の入学者には幼稚園教諭2種免許状を併せて取得できるコースを設定しており、希望者1名の学習サポートを行っている。

(4) 学修成果

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1	評価委員 確 認
就職率の向上が図られているか	4 ③ 2 1	
資格取得率の向上が図られているか	④ 3 2 1	
退学率の低減が図られているか	4 ③ 2 1	
卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	4 ③ 2 1	
卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	4 ③ 2 1	

【総括・特記事項】

- ・求人の情報提供と共に面接指導等、就職に向けての個別指導を十分に行っている。
- ・例年、本校で取得できる免許や資格を活用して就職率100%を目指している。令和5年度も就職希望者全員が就職することが出来た。なお、卒業学年は主婦や自営業などの在籍者であったため、卒業後すぐの就職を希望しない学生が多く見受けられた。
- ・社会福祉士資格取得率については国家試験の合格率上昇が課題である。学校独自の科目（時間数）を変更したこととの因果関係を一定期間経過後、検証し、今後の取り組みに活かしていく。
- ・令和5年度は退学者(1名)が生じた。復学に向け、定期的な連絡（状況把握）を行ってきたが、在籍年限の兼ね合いから、復学の期限となり、退学を選択することとなった。
- ・同窓会委員会を設立する事を目標におき卒業生と連絡をとることを進めているが実現出来ていない。については、引き続き卒業生の情報発信ネットワーク構築に努力する。

(5) 学生支援

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1	評価委員 確 認
進路・就職に関する支援体制は整備されているか	④ 3 2 1	
学生相談に関する体制は整備されているか	④ 3 2 1	
学生に対する経済的な支援体制は整備されているか	④ 3 2 1	
学生の健康管理を担う組織体制はあるか	④ 3 2 1	
課外活動に対する支援体制は整備されているか	④ 3 2 1	

学生への生活環境への支援は行われているか	4	③	2	1	
保護者と適切に連携しているか	4	③	2	1	
卒業生への支援体制はあるか	④	3	2	1	
社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	④	3	2	1	
高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取り組みが行われているか	4	③	2	1	

【総括・特記事項】

- ・雇用保険加入歴のある学生には「専門実践教育訓練費および教育訓練支援給付金」の利用を勧めている。
- ・平成 28 年度に創設され各都道府県社会福祉協議会が担当する「保育士修学資金」の利用を勧め、経済的に安定した学生生活を送れるように支援している。
- ・高等教育の修学支援制度の対象学科として、経済的な支援（学費サポート）制度を案内し、制度継続の為の学習支援を意識的に行っている。
- ・学業成績不良者について、学校生活や成績などで気になる点がある場合は、直接指導を行なっている。なお、保護者への定期的な連絡が必要な学生は皆無であった。
- ・卒業生からの転職、キャリアアップ等の相談には随時対応しているが、アウトリーチ的な支援を行っていないことが課題である。なお、保育現場での活躍を対面や電話で把握した際、継続的な就労を促す言葉かけや関わりを丁寧に行うことができた。
- ・学生自身が就職活動を積極的に行うことが出来るようにするため、各学生に応じた個別指導を実施している。
- ・就職に関しては、担任を含む学校としての支援体制を構築し、希望職種・希望施設への就職が実現できるように関わっている。
- ・学生が心身ともに健全な学生生活を送る為に、担任等が定期的に個人面談を行い、対人関係、学業などの悩みがある場合は積極的に対応している。
- ・両学年ともにボランティア活動を含め、日常生活においても対応できる「学生・生徒 24 時間共済」に加入し、課外活動支援に備えている。
- ・親元等から離れ、一人暮らしをしている学生についても生活環境を把握するように努め、状況に応じ、対応を行っている。

(6) 教育環境

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1				評価委員 確 認
施設及び教育設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	④	3	2	1	
学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	4	③	2	1	
防災に対する体制は整備されているか	4	③	2	1	

【総括・特記事項】

- ・厚生労働省指定カリキュラムに沿った施設・設備を整備している。
- ・海外研修については、民間企業の研修ツアー等を紹介するにとどまっている。
- ・保育実習は学生からの配属希望調査を行った上で配属先を決定している。実習先の協力を得て効果的な実習が行えるように実効性のある事前指導・巡回指導・事後指導を行った。
- ・防災については、消防署による定期的な検査・点検を受け法令に基づいた体制整備や自己点検を行っている。なお、災害被害を想定した具体的な訓練・役割分担の見直しは改めての課題である。

(7) 学生の受入れ募集

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1				評価委員 確 認
学生募集活動は、適正に行われているか	4	③	2	1	
学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	4	③	2	1	
学納金は妥当なものとなっているか	④	3	2	1	

【総括・特記事項】

- ・入学事務局、広報担当、広報委員を中心に、全職員が適正な学生募集活動を行っている。但し、出向き広報の件数が少ない為、足を運び、当科の教育内容を数多くの方に知ってもらうことが継続的な課題である。
- ・学校案内においては、授業内容、資格の内容等を示しており、毎年適宜見直し・改良している。ホームページについては更新を随時行っているが、さらに興味を引くような内容に適宜改良を進めていくことが課題である。特に、より正確かつタイムリーに 入学志願者・保護者等に伝わるものとなるよう努める余地がある。
- ・オンライン説明会を継続し、希望に応じ個別で対応している。なお、校舎案内については入試（社会人・リカレント入試やAO入試）で来校する際に兼ねて実施するように心がけてきた。
- ・入学選考方法は学生募集要項に明記しており、適切かつ公平な基準に基づき行われている。
- ・入学選考面接は、複数担当者にて実施している。
- ・学納金は、教育内容、社会状況、学生及び保護者の負担感等を考慮して設定されている。
- ・学園独自の奨学金（入学金全額免除・授業料一部減額）は、該当者全員が利用している。

(8) 財務

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1	評価委員 確 認
中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	④ 3 2 1	
予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	④ 3 2 1	
財務について会計監査が適正に行われているか	④ 3 2 1	
財務情報公開の体制整備はできているか	④ 3 2 1	

【総括・特記事項】

- ・中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえる。
- ・学校会計基準により財務諸表が作成され、予算と収支管理が行われている。
- ・財務について、会計監査が適正に行われている。
- ・学園ホームページにて、資金収支計算書、消費収支計算書、貸借対照表を公表している。

(9) 法令等の遵守

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1	評価委員 確 認
法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	④ 3 2 1	
個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	④ 3 2 1	
自己評価の実施と問題点の改善を行っているか	④ 3 2 1	
自己評価結果を公開しているか	④ 3 2 1	

【総括・特記事項】

- ・法令や設置基準等が遵守され、適正な運営を行っている。又、各部門において会議等を行い、設置基準等の正しい理解に努め、運営を行っている。
- ・個人情報保護委員会を設置し、職員教育を徹底している。
- ・個人ならびに学科としての自己点検・自己評価を実施し、昨年度の問題点の改善に取り組み、一定の成果を上げている。
- ・ホームページにて「自己点検・自己評価報告書」ならびに「学校関係者評価委員会報告書」の情報公開を行なった。

(10) 社会貢献・地域貢献

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1	評価委員 確 認
学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	4 ③ 2 1	
学生のボランティア活動を奨励、支援しているか	④ 3 2 1	
地域に対する公開講座・教育訓練（公共職業訓練等を含む）の受託等を積極的に実施しているか	④ 3 2 1	

【総括・特記事項】

- ・ハロウィンの時期、当学園提携施設の子ども達に向け、子どもたちとの交流を行った。
- ・保育現場から案内を頂いたボランティア活動などについて情報提供（掲示）を行い、ボランティア活動に参加することを支援した。
- ・社会福祉士科と連携し、地域の子どもたちを対象とした「のびのび学習室」でのボランティアに希望者が参加するなど活動を奨励している。
- ・保育士養成コース（長期高度人材育成コース）の委託事業を積極的に受託し、保育士の人材不足に対する解決策として訓練を行ってきた。なお、令和5年度は15名の修了生を輩出した。

(11) 国際交流

評価項目	適切…4、ほぼ適切 3、 やや不適切…2、不適切 1	評価委員 確 認
留学生の受入れ・派遣について戦略を持って行っているか	④ 3 2 1	
留学生の受入れ・派遣、在籍管理等において適切な手続き等がとられているか	④ 3 2 1	
留学生の学修・生活指導等について学内に適切な体制が整備されているか	④ 3 2 1	
学習成果が国内外で評価される取組を行っているか	4 ③ 2 1	

【総括・特記事項】

- ・今年度の留学生在籍は皆無であった。但し、令和6年度はラオス国籍（国費留学生）の入学を受け入れる予定である。
- ・留学生の卒業校（日本語学校）に定期的な連絡をとり、広報活動を行っている。具体的には、留学生の当校での様子・学習・生活指導の実績・就職先での様子、さらには入学希望者などの情報共有を行っている。

4 昨年の委員の方からのご意見に関する活用

(1) 退学率の低減(北野委員)

休学者（1名）が最長修業期間（規定）により、退学を選択した。決定をするに至り、段階を経て経過を見守ってきた。ついては、登校刺激や頻回にわたる関わりを持つことはせず、親子面談後は、学生への電話連絡を計画的(定期的)に行ってきた。その都度、次回連絡時期や内容を確認したうえで、学生の意向を尊重し、寄り添う関わりを行った。

既往歴などから、休学前の学生の様子（「頑張りすぎ」）に対して、長期的な目標を掲げ、頑張りすぎない支援を実施することで小さな成功体験を積み重ねることを意識するなどが今後の課題である。

(2) チャット GPT（久下委員・北野委員）

学んだ内容をまとめて表現する際、参考として「チャット GPT」を活用することは認めるが、引用し、理解できていないまま「チャット GPT」の内容を自分の言葉として使用することは認めない。ついては、レポート試験など課題提出において、「チャット GPT」活用の留意点を説明することを心がけた。

(3) ボランティア活動に関すること（太田委員）

施設見学やボランティア活動の案内を積極的に行うように心がけたことにより、参加率の上昇につながった。現場における人手不足解消が目的ではなく、参加学生が各施設の現場状況を知り、保育士としての活躍現場（就業先）について考える一助となったことは成果である。

なお、ボランティア活動で経験した内容をクラス内（休憩時間）などで共有し、資料を閲覧、次期ボランティア予定などを教え合ったりすることから相乗効果も得られた。

(4) 学校関係者委員会のジュニア版（久下委員）

卒業生に集まって頂いての委員会実施はしていないが、来校があった卒業生に学生生活や卒業後の就職状況（現状）を聞くことなどを心がけた。ついては、仕事への心構え、現場に出たからこそ気づけたこと（学校で学んでおきたかった事など）を把握してきた。男性保育士の現状（意識していること・やりにくさを感じていること）なども個別で聞き、就職定着支援にも繋げている。直接、卒業生との交流が出来るとよいが、職員を介して在校生や当科希望者などに「卒業生の実際」を伝えている。

(5) 学校運営について（久下委員）

特定の教員に負担が集中した場合、多忙な教員がさらに日常業務を処理できない状況となる。その為、学生にとって望ましい教務体制を整備する為に定期的な教務会議を実施している。

ついては、近々の課題に取り組み、効果的な対応を考えるために協議し、各職員の適性に応じた役割分担を行うことを心がけている。

(6) 養成施設の入学定員割れ（檜村委員）

特待生制度（臨床工学科）を参考に、養成施設の入学定員割れの課題に対して、入試制度の検討を行った。又、現状に応じた定員数を協議し、定員変更申請を行った。

5 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果（令和5年度の評価結果と令和6年度の目標や計画）

（1）教育理念・目標

- ・保護者の入学式参列やオープンキャンパスへの同席があった場合は、当科の教育方針などを積極的に説明するように心がけている。については、継続的に懇談会やオープンキャンパスイベントなどで保護者とコミュニケーションをとることから本科の特徴を理解して頂くことを目指したい。

（2）学校運営

- ・業務効率化を図る情報システム化として、クラスルームの運用を始めている。一斉配信の情報提供で使用する事が多いが、今後は学生からの発信（意見）などを聞く手段としてもさらに活用を進めていきたい。

（3）教育活動

- ・実践力・即戦力を身につける為、演習科目（音楽）は複数名の教員を確保し、個別指導の機会を充実させてきた。又、保育現場との連携により、配属実習前の観察実習の実施などを行ってきた。
- ・各科における職場内研修は意識して行ってきたが、職場外研修への積極的な参加が出来ていない。教員・職員の能力開発のための研修参加が継続的な課題である。
- ・大学卒業者への幼稚園教諭1種免許状取得・高校卒業者への幼稚園教諭2種免許状取得のサポート校として、学習及び資格取得支援に力を注いできた。今後も就職先の幅を広げ、多視点をもつ専門職養成を意識し、支援を行っていきたい。

（4）学修成果

- ・卒業生の割合として主婦や自営業が多く、新規就職希望者は若干名であった。希望の雇用形態や就職時期には個人差が見られたが、丁寧に関わり、状況把握を行うことは出来た。今後も資格保有者が活躍できる職場の提案や状況把握を継続的に行っていきたい。
- ・令和5年度に退学者が生じた。復学に向け、定期的な連絡（状況把握）を行ってきたが、状況に変化が見られなかった為、期限を決め、対応した。今後は休学前の段階で、一早く学生の特性を把握し、長期的な目標が持てるように支援を行っていきたい。
- ・社会福祉士資格取得率についてはさらなる国家試験の合格率上昇が課題である。今後は学校独自の科目（新カリキュラム）が一定期間経過した後、検証し、今後の取り組みに活かしていきたい。

（5）学生支援

- ・高校卒業者の入学者が少数であり、保護者への定期的な連絡が必要な学生は皆無であった。
- ・学校生活や就職に関する相談は担任が受け、一人一人の状況に応じた対応を即時でとることを心がけた。
- ・卒業生から教員が話を聞く機会も増えてきている。については、課題が生じた場合だけでなく、出来ていることや現状などを保護者と共有することや、相談に自ら来ない学生への声かけを課題としたい。又、卒業生と在校生（当科に興味がある方）との交流機会を設け、学科としての充実を図りたい。

（6）教育環境

- ・防災について法令に基づいた体制整備や自己点検を行っている。又、授業内において避難訓練や災害対策などに触れ、職業人としての防災教育を行っている。については、避難経路を含め、実地での訓練を行うことが課題である。

（7）学生の受入れ募集

- ・新型コロナウイルス感染症が5類となった後も、積極的にオンラインにおけるオープンキャンパスを継続して実施している。
- ・広報活動に関する事前研修を行ったうえで、オープンキャンパスや学校・施設訪問の担当を担った。については、専任教員の全員が一貫して当科の魅力や教育効果について説明が出来るように研修を行い、実践してもらおうことが課題である。
- ・ホームページやSNSにより学生の様子を適宜伝える為、定期的な更新を行ってきた。については、教育理念（トリプル資格取得・ソーシャルワーク保育士の養成）などの学科特徴をさらにPRしていくことが課題である。

(8) 社会貢献・地域貢献

- ・ 案内を頂いたボランティア活動などについて情報提供（掲示）を行った。については、ボランティア活動の内容を学生同士で共有化することを推奨した。
- ・ 大阪府の待機児童解消施策として行われている職業訓練「長期高度人材育成コース（保育士養成コース）」の訓練生 15 名修了（令和 4 年度生）・12 名（令和 5 年度生）を受け入れた。本科生と共に、学びの相乗効果が得られるようにクラス運営を実施している。については、令和 6 年度もボランティア活動の情報提供を始め、参加後の学生間共有を推奨していきたい。又、職業訓練「長期高度人材育成コース（保育士養成コース）」の委託を引き続き受け、教育を担っていきたい。

(9) 国際交流

- ・ 留学生の卒業校（日本語学校）に定期的に連絡をとり、卒業後の留学生の様子や今後の入学希望者などについて情報共有を行っている。については、多様性を重視したクラス運営に繋げることが出来るように継続的な広報活動を実施していきたい。なお、令和 6 年度は国費留学生が入学する為、他学科（日本語学科など）との交流や授業内容に関する学習支援を検討していくことが課題である。